

中医国际教育教科書シリーズ

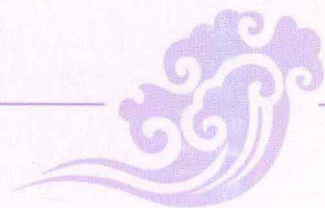
総編集・劉平

副総編集・張碧英

上海中医药大学国際教育学院総企画

中薬学

編著・張碧英 郭忻



上海科学技術出版社

中医国際教育教科書シリーズ

総編集 劉平

副総編集 張碧英

中藥学

上海中医藥大学国際教育学院総企画

編著

張碧英 郭忻

上海科学技術出版社

图书在版编目(CIP)数据

中药学:日文/上海中医药大学国际教育学院编.
—上海:上海科学技术出版社,2010.11
(中医国际教育系列教材)
ISBN 978-7-5478-0005-8

I. ①中... II. ①上... III. ①中药学—教材—
日文 IV. ①R28

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2010)第 172512 号

上海世纪出版股份有限公司 出版、发行
上海科学技术出版社
(上海钦州南路 71 号 邮政编码 200235)
苏州望电印刷有限公司印刷 新华书店上海发行所经销
开本 787×1092 1/16
印张 23.25 字数 460 千
2010 年 11 月第 1 版 2010 年 11 月第 1 次印刷
ISBN 978-7-5478-0005-8/R·171
定价:100.00 元

本书如有欠页、错装或坏损等严重质量问题,
请向工厂联系调换

中医国際教育教科書シリーズ

総編集 劉 平 副総編集 張碧英

《中医基礎理論》

編著 張碧英 張再良

《中医診断学》

編著 鉏桂祥 鐘祥華

《中薬学》

編著 張碧英 郭 忻

《方剂学》

編著 鉏桂祥 文小平

《中医内科学》

編著 朱根勝 鈴木康仁 村上梧庵

序

現在の世界医学システムを見ると、多くの国と地域では、西洋医学システムが主流となっており、同時に、全世界では、疾病の予防と治療をする為に、70%の人が、ある程度、伝統医学と言う手段を利用しています。

アジアの3大伝統医学システムとして、中国伝統医学は、そのうちの最大のものであり、それは深遠な中華文明に伴って海上と陸地という2本のシルクロードを通して早くもアジア各国に、伝わっていきました。これは、我々中国が世界医療衛生事業に尽くした大きな貢献です。

今日の世界医療衛生事業は、新しいチャレンジに直面しています。このチャレンジは、医学目的の調整と医学モードの転換に現れています。現代医学は、疾病を対象とし、病因の除去、病理の矯正、病巣の切除を目的とする治療となっており、こうした認識観は医療と社会の実践の中に益々その不十分な所と限局性が現れ、人々の深い反省を呼んでおり、それにより医学目的の調整と医学モードの転換と言う論議を引き起こしました。現在、元来の疾病に対抗することを目的とする医学から、健康維持、健康増進、疾病の予防、人間の自己健康能力を発揮させる事を目的とする医学へ、徐々に転換し、疾病を除去する事を目的とする生物医学も、生物—社会—心理—環境と言う医学モードへ転換しつつあります。

中国医薬学は、中華民族が長期に亘って、人体の健康を模索している過程で、累積してきた医学文化の至宝であり、その源は遠く、歴史は長く、内容は広くて奥深いものです。此処数十年來、国内外の現代医学と科学技術の発展に伴い、中医薬学の科学価値と臨床価値が、益々世界の人々の注目を集めています。人体は1つで全体であると言う考え方、弁証論治、総合調整と言う理念は、現代主流医学に日増しに浸透し、深い影響が生まれています。多くの国々は、中医薬を自分の国の代替医療、或いは、補助医学の一つとしています。中医薬学は、世界に進出し、現代医学と互いに長所を取り入れ、短所を補い、人類の共通の健康問題を解決する為に、共に発展させる時代が、既に到来していると思われます。

中日両国医学文化交流は、源は遠く、歴史は長いです。1500年前に、既に、中国の灸治療術等、中医薬の技術は、唐代の中国文化と共に、日本に渡りました。明治維新迄は、「漢方医学」は、日本の国医として、日本国民の健康の為に重要な貢献をしました。それと同時に、中日両国民を

連携する重要な文化の絆ともなりました。今日に至って、中日両国医学発展の社会文化環境に、大きな変化が起こり、両国伝統医学発展の軌跡は異なりますが、両者の間を連携する「架け橋」が、築かれていて、つまり、中医薬文化の生命力は留まる処を知りません。中医薬の古方方剤の開発・研究、及び製薬技術に対する日本の研究は、我々に多くの重要なヒントを与えてくれましたが、中医薬基礎理論、及び中薬の現代薬理に対する中国の研究は、日本国民の中医薬の科学技術と中医薬文化を勉強、理解するために手がかりを提供しました。

「長風破波会有期、直掛雲帆濟滄海」(大業を成す時が到来すれば、直ぐ帆を揚げて、大海原へ漕ぎだそう。)

中日両国の医学文化交流は、責任が重く、道程は未だ遠いと思います。私は、この『中医国際教育教科書シリーズ』の出版は、両国の医学と文化の交流に、新たな貢献が出来、新しい医学の「シルクロード」になれる事と確信しております。

上海中医薬大学

学長 陳凱先

2009年4月 上海にて

編著者の説明

はじめに、この本の編纂意図を記しておきます。

【1】出版の背景

中国医学と日本の東洋医学の理論体系は、共通する所もあり、また違う所もあります。中国医学と日本漢方では、用語が異なっており、文字が同じでも意味が違うこともあります。日本漢方でも流派によっては、必ずしも用語の意味とか内容が同じでないという、困った状況にあるのです。

ここ数年来、中国医学や中薬学が世界への進出を加速しつつあり、日本に於ける「中医学」の普及ぶりもめざましく、中日医学関係者の往来と交流は、内容の濃いものになってきており、増えつつある出版物と相まって、中医学の用語や概念は中日間では、ほぼ同じになり、考え方も本格化して、伝統医学に関する共通の言葉が増加して来ました。

世界で、中医学の普及活動を推進する為、教育を行うことは大切な事です。そこで中医学を体系化した学問として、教育するための教科書を作る必要があるのです。上海中薬大学は、WHOの指定している伝統医学合作センターとなっており、毎年多くの諸外国の方々の中医研修教育を実施しています。こうした背景を踏まえながら、上海中薬大学・国際教育学院日本部の指導教師と、日本の中医事業に携わっている医者の方々との共同で『中医国際教育教科書シリーズ』（日本語版）の制作にあたっています。この教科書シリーズは、現段階では、「中医基礎理論」、「中医診断学」、「中薬学」、「方剤学」、「中医内科学」を発行しており、更にこれからも編纂を続けていきます。

【2】企画目的

この教科書シリーズは、中医学の全体像を体系的に示すと共に、基本理論や用語そして概念を明確に定義して、広く中医学を普及させ、本格的に且つ系統的に中医学を学ぼうとする日本人の為に、正確に弁証(診断)のできる日本人中医師を育成する目的で企画されたものです。

【3】この教科書の位置付け

この教科書シリーズでは、出来るだけ日本人が中医学を学ぶ立場に立って平易な文章を心が

第六章 用薬の禁忌

29

第七章 中薬の用量と用法

31

第一節 用量	31	第二節 用法	32
--------------	----	--------------	----

各論

第八章 解表薬

38

第一節 発散風寒薬.....	39	辛夷(しんい)	49
麻黄(まおう)	39	葱白(そうはく)	50
桂枝(けいし)	40	芫荽(げんすい)	51
紫蘇葉(しそよう).....	41	西河柳(せいかりゅう)	51
【附】 蘇梗(そこう)	42	第二節 発散風熱薬.....	52
生姜(しょうきょう).....	42	薄荷(はっか)	52
【附】 生姜皮(しょうきょうひ)	43	牛蒡子(ごぼうし).....	53
【附】 生姜汁(しょうきょうじる)	43	蝉退(せんたい)	54
【附】 煨姜(わいきょう)	43	桑葉(そうよう)	55
香薷(こうじゆ)	43	菊花(きくか)	55
荆芥(けいがい)	44	蔓荊子(まんけいし)	56
防风(ぼうふう)	44	柴胡(さいこ)	57
羌活(きょうかつ)	45	升麻(しょうま)	58
白芷(びやくし)	46	葛根(かつこん)	59
細辛(さいしん)	47	淡豆豉(たんとうし)	59
藁本(こうほん)	48	浮萍(ふへい)	60
蒼耳子(そうじし).....	49	木賊(もくぞく)	61
【附】 蒼耳草(そうじそう)	49		

第九章 清熱藥

62

第一節 清熱瀉火藥	63	野菊花(のぎくか)	81
石膏(せっこう)	63	穿心蓮(せんしんれん)	81
寒水石(かんすいせき)	64	大青葉(だいせいよう)	82
知母(ちも)	65	板藍根(ばんらんこん)	83
芦根(ろこん)	66	青黛(せいだい)	84
天花粉(てんかふん)	66	貫衆(かんじゅう)	84
淡竹葉(たんちくよう)	67	魚腥草(ぎょせいそう)	85
【附】 竹葉卷心(ちくようけんしん)	67	紅藤(こうとう)	86
山梔子(さんしし)	68	敗醬草(はいしょうそう)	86
夏枯草(かごそう)	68	射干(しゃかん)	87
決明子(けつめいし)	69	山豆根(さんずこん)	87
谷精草(こくせいそう)	70	馬勃(ばぼつ)	88
密蒙花(みつもうか)	70	白頭翁(はくとうおう)	89
青葙子(せいそうし)	71	馬齒莧(ばしけん)	89
第二節 清熱燥湿藥	71	鴉胆子(あたんし)	90
黃芩(おうごん)	72	地錦草(ちきんそう)	90
黃連(おうれん)	73	蚤休(そうきゅう)	91
黃柏(おうばく)	74	半辺蓮(はんぺんれん)	92
竜胆草(りゅうたんそう)	75	白花蛇舌草(びゃつかじゃぜつそう)	92
秦皮(しんぴ)	75	山慈姑(サンジコ)	93
苦參(くじん)	76	土茯苓(どぶくりょう)	93
白鮮皮(はくせんぴ)	77	熊胆(ゆうたん)	94
第三節 清熱解毒藥	77	漏芦(ろうろ)	94
金銀花(きんぎんか)	78	白藜(びやくれん)	95
【附】 忍冬藤(にんどうとう)	78	四季青(しきせい)	96
連翹(れんぎょう)	79	綠豆(りよくず)	96
蒲公英(ほこうえい)	79	第四節 清熱涼血藥	97
紫花地丁(しかじちよう)	80	生地黄(なまじおう)	97

玄参(げんじん) 98
 牡丹皮(ぼたんぴ) 99
 赤芍(せきしゃく) 100
 紫草(しそう) 100
 水牛角(すいぎゅうかく・すいごかく)
 101

第五節 清虚熱薬 102
 青蒿(せいこう) 102
 白薇(びやくび) 103
 地骨皮(じこっぴ) 103
 銀柴胡(ぎんさいこ) 104
 胡黄连(こおうれん) 104

第十章 瀉下薬

106

第一節 攻下薬 107
 大黄(だいおう) 107
 芒硝(ぼうしょう) 109
 番瀉葉(ばんしゃよう) 109
 芦荟(ろかい) 110
 第二節 潤下薬 110
 火麻仁(かまにん) 111
 郁李仁(いくりにん) 111

第三節 峻下逐水薬 112
 甘遂(かんすい) 112
 京大戟(きょうだいげき) 113
 芫花(げんか) 113
 商陸(しょうりく) 114
 牽牛子(けんごし) 115
 巴豆(はず) 115
 續随子(ぞくずいし) 116

第十一章 祛風湿薬

118

独活(どっかつ) 118
 威靈仙(いれいせん) 119
 川烏(せんう) 120
 白花蛇(はっかだ) 120
 烏梢蛇(うしょうだ) 121
 木瓜(もっか) 121
 蚕砂(さんしゃ) 122
 尋骨風(じんこつふう) 122
 松節(しょうせつ) 123
 海風藤(かいふうとう) 123

路路通(ろろつう) 124
 秦艽(じんぎょう) 124
 防己(ぼうい) 125
 雷公藤(らいこうとう) 126
 桑枝(そうし) 126
 豨薟草(きれんそう) 127
 絡石藤(らくせきとう) 127
 海桐皮(かいとうひ) 128
 絲瓜絡(しからく) 128
 五加皮(ごかひ) 129

桑寄生(そうきせい)	129	千年健(せんねんけん)	131
狗脊(くせき)	130		

第十二章 化湿薬

132

藿香(かっこう)	132	【附】 砂仁殻(さにんかく)	135
佩蘭(はいらん)	133	白豆蔻(びやくずく)	136
蒼朮(そうじゆつ)	134	【附】 豆蔻殻(ずくかく)	136
厚朴(こうぼく)	134	草豆蔻(そうずく)	136
砂仁(しゃにん)	135	草果(そうか)	137

第十三章 利水滲湿薬

138

第一節 利水消腫薬	138	木通(もくつう)	146
茯苓(ふくりょう)	138	通草(つうそう)	146
【附】 茯苓皮(ふくりょうひ)	139	瞿麦(くばく)	147
【附】 茯神(ふくじん)	139	萹蓄(へんちく)	147
薏苡仁(よくいにん)	140	地膚子(じふし)	148
猪苓(ちよれい)	141	海金沙(かいきんしゃ)	148
沢瀉(たくしゃ)	141	【附】 海金沙藤(かいきんしゃとう)	149
冬瓜皮(とうかひ)	141	石葦(せきい)	149
【附】 冬瓜仁(とうかにん)	142	冬葵子(とうきし)	150
玉米鬚(ぎょくまいしゆ)	142	灯心草(とうしんそ)	150
葫蘆(ころ)	143	草薺(ひかい)	151
沢漆(たくしつ)	143	第三節 利湿退黄薬	151
第二節 利尿通淋薬	144	茵陳蒿(いんちんこう)	152
車前子(しゃぜんし)	144	金錢草(きんせんそう)	152
【附】 車前草(しゃぜんそう)	144	垂盆草(すいぼんそう)	153
滑石(かつせき)	145	虎杖(こじょう)	153

第十四章 温 裏 薬

155

附子(ぶし)	156	花椒(かしょう)	160
乾姜(かんきょう)	156	【附】 椒目(しょうもく)	161
肉桂(につけい)	157	丁香(ちようこう)	161
呉茱萸(ごしゆゆ)	158	藜蘆(ひはつ)	161
小茴香(しょうういきょう)	159	藜澄茄(ひっちょうか)	162
高良姜(こうりょうきょう)	160	胡椒(こしょう)	162

第十五章 理 気 薬

164

陳皮(ちんぴ)	164	烏薬(うやく)	170
【附】 橘核(きつかく)	165	荔枝核(れいしかく)	171
【附】 橘絡(きつらく)	165	仏手(ぶしゆ)	171
【附】 橘葉(キツヨウ)	165	香櫞(こうえん)	172
【附】 化橘紅(かきつこう)	165	玫瑰花(まいかいか)	172
青皮(せいひ)	166	緑萼梅(りよくがくばい)	173
枳実(きじつ)	166	薤白(がいはく)	173
【附】 枳殼(きこく)	167	青木香(せいもっこう)	174
木香(もっこう)	167	大腹皮(だいふくひ)	174
沈香(じんこう)	168	柿蒂(してい)	175
檀香(だんこう)	169	刀豆(とうず)	175
香附(こうぶ)	169	甘松(かんしょう)	176
川楝子(せんれんし)	170	九香虫(くこうちゅう)	176

第十六章 消 食 薬

178

山楂子(さんざし)	178	神曲(しんきよく)	179
-----------------	-----	-----------------	-----

麦芽(ばくが)	179	萊菔子(らいふくし)	180
稻芽(とうが)	180	鷄内金(けいなきん)	181

第十七章 驅虫薬

183

使君子(しくんし)	183	雷丸(らいがん)	187
苦楝皮(くれんぴ)	184	鶴虱(かくしつ)	187
檳榔(びんろう)	185	榧子(ひし)	188
南瓜子(なんかし)	186	蕪夷(ふい)	188
鶴草芽(かくそうが)	186		

第十八章 止血薬

190

第一節 涼血止血薬	191	花蕊石(かずいせき)	198
大薊(だいけい)	191	降香(こうこう)	198
小薊(しょうけい)	191	第三節 収斂止血薬	199
地榆(じゆ)	192	白芨(びやくきゆう)	199
槐花(かいか)	193	仙鶴草(せんかくそう)	200
【附】 槐角(かいかく)	193	紫珠(しじゆ)	201
側柏葉(そくはくよう)	193	棕櫚炭(そうろたん)	201
白茅根(はくぼうこん)	194	血余炭(けつよたん)	202
萱麻根(けんまこん)	195	藕節(ぐうせつ)	202
羊蹄(ようてい)	195	第四節 温経止血薬	203
第二節 化瘀止血薬	196	炮姜(ほうきょう)	203
三七(さんしち)	196	艾葉(がいよう)	204
茜草(せいそう)	197	灶心土(そうしんど)	205
蒲黃(ほおう)	197		

第十九章 活血化癥薬

206

第一節 活血止痛薬	206	王不留行(おうふるぎょう)	218
川芎(せんきゅう)	207	月季花(げっきか)	219
延胡索(えんごさく)	208	凌霄花(りょうしょうか)	220
鬱金(うこん)	208	第三節 活血療傷薬	220
姜黄(きょうおう)	209	廬虫(しゃちゅう)	220
乳香(にゅうこう)	210	自然銅(しぜんどう)	221
没薬(ぼつやく)	211	蘇木(そぼく)	222
五靈脂(ごれいし)	211	骨碎補(こつさいほ)	222
第二節 活血調経薬	212	血竭(けっけつ)	223
丹参(たんじん)	212	児茶(じちや)	223
紅花(こうか)	213	劉寄奴(りゅうきど)	224
【附】 番紅花(ばんこうか)	214	第四節 破血消癥薬	224
桃仁(とうにん)	214	莪朮(がじゅつ)	225
益母草(やくもそう)	215	三棱(さんりょう)	225
沢蘭(たくらん)	216	水蛭(すいてつ)	226
牛膝(ごしつ)	217	虻虫(ぼうちゅう)	227
【附】 土牛膝(どごしつ)	218	穿山甲(せんざんこう)	227
鷄血藤(けいけつとう)	218		

第二十章 化痰止咳平喘薬

229

第一節 化痰薬	230	皂角(そうかく)	234
半夏(はんげ)	230	【附】 皂角刺(そうかくし)	235
天南星(てんなんせい)	231	旋覆花(せんぷくか)	235
【附】 胆南星(たんなんせい)	232	【附】 金沸草(きんふつそう)	236
白附子(びやくぶし)	232	白前(びやくぜん)	236
白芥子(はくがいし)	233	前胡(ぜんこ)	236

桔梗(ききょう).....	237	苦杏仁(くきょうにん).....	246
川貝母(せんばいも).....	237	【附】甜杏仁(てんきょうにん).....	247
浙貝母(せつばいも).....	238	蘇子(そし).....	247
栝楼(かろ).....	239	百部(びやくぶ).....	247
竹筴(ちくじょ).....	240	紫苑(しおん).....	248
竹瀝(ちくれき).....	240	款冬花(かんとうか).....	249
天竺黄(てんじくおう).....	241	馬兜鈴(ばとれい).....	249
海藻(かいそう).....	242	枇杷葉(びわよう).....	250
昆布(こんぶ).....	242	桑白皮(そうはくひ).....	251
黄蘗子(おうやくし).....	243	葶藶子(ていれきし).....	251
海蛤殼(かいごうかく).....	243	銀杏(ぎんきょう).....	252
海浮石(かいふせき).....	244	【附】銀杏葉(ぎんきょうよう).....	253
礞石(もうせき).....	244	矮地茶(わいじちや).....	253
胖大海(ぼんたいかい).....	245	洋金花(ようきんか).....	253
第二節 止咳平喘薬	245		

第二十一章 安神薬

255

第一節 重鎮安神薬	255	酸棗仁(さんそうにん).....	259
朱砂(しゆしゃ).....	256	柏子仁(はくしにん).....	260
磁石(じしゃく・じせき).....	256	遠志(おんじ).....	261
竜骨(りゅうこつ).....	257	合歡皮(ごうかんひ).....	261
【附】竜齒(りゅうし).....	258	【附】合歡花(ごうかんか).....	262
琥珀(こはく).....	258	夜交藤(やこうとう).....	262
第二節 養心安神薬	259		

第二十二章 平肝熄風薬

263

第一節 平抑肝陽薬	263	真珠母(しんじゅも).....	264
石決明(せつげつめい).....	264	牡蛎(ぼれい).....	265

赭石(しゃせき)..... 266
 白蒺藜(びやくしつり)..... 267
 羅布麻(らふま)..... 267
第二節 熄風鎮痙薬..... 268
 羚羊角(れいようかく)..... 268
 鈎藤(こうとう)..... 269

天麻(てんま)..... 270
 地竜(じりゅう)..... 271
 全蝎(ぜんかつ)..... 272
 蜈蚣(ごしょう)..... 273
 僵蚕(きょうさん)..... 273

第二十三章 開竅薬

275

麝香(じゃこう)..... 275
 冰片(ひょうへん)..... 277
 蘇合香(そごうこう)..... 277

石菖蒲(せきしょうぶ)..... 278
 蟾酥(せんそ)..... 279

第二十四章 補虚薬

280

第一節 補気薬..... 281
 人参(にんじん)..... 281
 西洋人参(せいようにんじん)..... 282
 党参(とうじん)..... 283
 太子参(たいしじん)..... 284
 黄耆(おうぎ)..... 284
 白朮(びやくじゅつ)..... 285
 山薬(さんやく)..... 286
 白扁豆(はくへんず)..... 287
 【附】 扁豆衣(へんずい) 扁豆花
 (へんずか)..... 287
 甘草(かんぞう)..... 288
 大棗(たいそう)..... 289
 飴糖(いとう)..... 289
 蜂蜜(はちみつ)..... 290

第二節 補陽薬..... 291
 鹿茸(ろくじょう)..... 291
 【附】 鹿角膠(ろっかくきょう)
 鹿角霜(ろっかくそう)..... 292
 巴戟天(はげきてん)..... 293
 淫羊藿(いんようかく)..... 293
 仙茅(せんぼう)..... 294
 補骨脂(ほこつし)..... 294
 益智仁(やくちにん)..... 295
 肉蓯蓉(にくじゅうよう)..... 296
 鎖陽(さよう)..... 296
 菟絲子(としし)..... 297
 沙苑子(しゃえんし)..... 298
 杜仲(とちゅう)..... 298
 續斷(ぞくだん)..... 299

韭子(きゅうし)……………	300	北沙参(きたしゃじん)……………	309
陽起石(ようきせき)……………	300	南沙参(なんしゃじん)……………	310
胡芦巴(ころは)……………	300	百合(ゆり)……………	310
胡桃仁(ことうにん)……………	301	麦門冬(ばくもんとう)……………	311
蛤蚧(ごうかい)……………	301	天門冬(てんもんとう)……………	311
冬虫夏草(とうちゅうかそう)……………	302	石斛(せっこく)……………	312
紫河車(しかしゃ)……………	303	玉竹(ぎょくちく)……………	313
第三節 補血薬 ……………	303	黄精(おうせい)……………	313
当帰(とうき)……………	304	枸杞子(くこし)……………	314
熟地黄(じゅくじおう)……………	305	旱蓮草(かんれんそう)……………	315
白芍薬(しろしゃくやく)……………	305	女貞子(じょていし)……………	315
何首烏(かしゅう)……………	306	桑椹(そうじん)……………	316
阿膠(あきょう)……………	307	黒胡麻(くろごま)……………	317
竜眼肉(りゅうがんにく)……………	308	亀板(きばん)……………	317
第四節 補陰薬 ……………	308	鼈甲(べっこう)……………	318

第二十五章 収 澁 薬

319

第一節 固表止汗薬 ……………	319	赤石脂(しゃくせきし)……………	327
麻黄根(まおうこん)……………	320	禹余粮(うよりょう)……………	328
浮小麦(ふしょうばく)……………	320	第三節 固精縮尿止帯薬 ……………	328
【附】小麦(しょうばく)……………	321	山茱萸(さんしゅゆ)……………	329
糯米根(じゅべいこん)……………	321	覆盆子(ふくぼんし)……………	330
第二節 斂肺澁腸薬 ……………	321	桑螵蛸(そうひょうしょう)……………	330
五味子(ごみし)……………	322	烏賊骨(うぞくこつ)……………	331
烏梅(うばい)……………	323	金桜子(きんおうし)……………	331
五倍子(ごばいし)……………	324	蓮子(れんし)……………	332
罌粟殼(おうぞくこく)……………	325	【附】蓮鬚(れんしゅ) 蓮子心(れん ししん) 蓮房(れんぼう)	
訶子(かし)……………	325	荷葉(かっぱ)……………	333
石榴皮(せきりゅうひ)……………	326	芡実(けんじつ)……………	333
肉豆蔻(にくぞく)……………	326		